

熊事研会報

平成25年6月28日発行 第111号

<http://sakura1.higo.ed.jp/ws/jimukenws/>

発行者 熊本県学校事務研究協議会会長 藤川 英一

編集代表 事務局長 上田 千浩

〒860-0001 熊本市中央区千葉城町5-2

Te l 096-353-6417

F a x 096-353-6421

主な記事

[会長あいさつ](#)

[熊事研役員](#)

[研究部長あいさつ](#)

[実行委員会便り](#)

[研究部便り](#)

[地区研ホームページ紹介](#)



今年度もよろしくお願いたします。

熊本県学校事務研究協議会 会長 藤川 英一

梅雨明けが待たれるこのごろですが、会員の皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。この会報が皆さまのお手元に届く頃は学期末でお忙しいことかと思えます。

先ずは、今年4月に県下各地区で新しく社会人としてのスタートをされました新規採用の22名の皆さま、ようこそ熊事研へ。心より歓迎申し上げます。もう学校には慣れましたか？ それぞれの学校で児童生徒のため、地域のために力を注いでいらっしゃるのかと思えます。本会の活動につきましては多くの会員の方々にご協力いただいておりますが、皆さま方の若い力と斬新な考え方もまた必要です。熊事研活動にご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

さて、先の理事会におきまして、今年度も会長として選出いただきました熊本市立砂取小学校の藤川です。今年度も理事会並びに新たに副会長に就任していただきました西住理事、前田理事を始め上田事務局長、内田研究部長、さらには事務局、研究部の皆さまとともに一体となって熊事研発展のために尽くしてまいりますので、会員の皆さまのご協力のほど、よろしくお願いたします。

平成27年度の全事研熊本大会開催準備につきましては、理事会や会報等を通してお伝えしてきたところですが、実行委員会では宮本実行委員長のもと各部の陣容も固まり、いよいよ具体的な活動に入りました。詳しくは「実行委員会だより」のページをご覧ください。

また、今年度の研究大会は昨年度と同様に市民会館崇城大学ホール(熊本市民会館)をメインに10月23日(水)から24日(木)の2日間の日程で開催します。熊事研発足と同時に始まったこの研究大会は今年で39回目を迎えます。長い歴史があり、毎年各地区から素晴らしい実践を発表していただき、全県下の会員がその実践を共有し、あるいは共通の課題として確認することで私たち学校事務職員の資質の向上に繋げてまいりました。しかしながらこの間、私たちを取り巻く環境も共同実施の全県下での導入、熊本市の政令市移行、学校事務という職種名称から教育行政事務・教育事務職としての採用、所謂「学校事務と教育行政の一体化」等々、大きく変わってきています。

このようなことから、これからは研究大会そのものも各地区からの優れた実践を発表していただくというその良さは残して行きつつも、単年度での研究実践の交換・交流の場から、例えば研究部を中心に熊本の学校事務のあり方について、長期的な将来への展望を持った研究を深め、その結果を会員の皆さまに提起、提言をし、会員の皆さまとともに考えていけるような研究大会にしていけたらと考えています。

なお、本会は平成10年度に機構整備委員会を設置し、延べ4回による集中審議を経て、翌11年度に貴重な答申をいただきました。この答申に基づき現在の会則、会計制度が整備され、研究部の設置(平成13年度)や役員を選出等々、本会の会務運営に関する重要な事項が整備されてきたところです。しかし答申から10年以上が経過し、前述しましたように私たちを取り巻く環境も大きく変わってきていますが、未だ懸案事項も残されています。このような状況の中で理事会では今一度、第二次とも言うべき機構整備委員会を設置し、総会の開催時期を含めた諸懸案事項について集中的に論議をしていこうという結論に達しました。答申をいただきましたら、各地区での論議も必要となってくる事案もあるかと思えます。このことにつきましても、どうぞよろしくお願申し上げます。

平成25年度 熊事研役員

6月の第1回理事会で選出並びに承認されました、熊事研の役員を紹介します。

会長：藤川 英一（熊本） 副会長：西住 成輝（菊池）、前田 和英（八代）

事務局長：上田 千浩（熊本） 研究部長：内田 貴博（上益城）

監事：杉 浩隆（阿蘇）、松本 照美（上益城）

理事			事務局員			研究部員		
地区	氏名	学校名	地区	氏名	学校名	地区	氏名	学校名
荒玉	藤本 幸一	小田小学校	熊本	北村 博之	麻生田小学校	荒玉	筒井 迪子	府本小学校
鹿本	中池 充	三玉小学校	熊本	岩下 紀子	城西小学校	鹿本	水野 薫	鶴城中学校
菊池	西住 成輝	合志南小学校	水葦	蒔平 三和	佐敷中学校	菊池	松田真理子	菊陽南小学校
阿蘇	原田富美子	白水中学校	天草	鞭馬かおる	維和中学校	阿蘇	佐藤 紘史	高森東中学校
熊本	松本 康子	高平台小学校	荒玉	猿渡 明子	春富小学校	熊本	中山やよい	菱形小学校
上益城	上野真理子	飯野小学校	荒玉	轟 佳織	菊水西小学校	上益城	吉山 典子	木倉小学校
宇城	入江 政司	砥用中学校	人球	北里 良徳	渡小学校	宇城	平野 哲也	三角中学校
八代	前田 和英	第四中学校	宇城	内門 綾子	網田小学校	八代	杉本 泰成	第一中学校
人球	萩永 誠	第一中学校				人球	田村 亮二	一武小学校
水葦	松永 康宏	田浦小学校				水葦	今脇 里美	津奈木小学校
天草	原田 文幸	河浦中学校				天草	松本 優喜	中南小学校

よろしくお願ひします。

研究部長 山都町立潤徳小学校 内田 貴博

6月の第1回理事会で研究部長に選任されました。過去3年間、平木研究部長のご指導のもとで、研究部員として研究部の活動を行ってきました。それまでは研究と聞くと拒絶反応みたいなものがあったのですが、三年間の活動を通して研究することの楽しさと必要性を学ぶことができました。その中でも、全事研鳥取大会での発表という大変貴重な経験をさせていただいたことは、今の私にとって大きな財産となっています。そのような経験を生かし、歴代部長の研究成果を引継ぎつつ、研究を進めていきたいと思っています。

ここ数年で、共同実施の導入、人事交流・採用制度と、学校事務を取り巻く状況は刻々と変化しています。それに伴い、職域の幅も広がり、周囲から求められることも大きくなってきているように感じます。それぞれが職務能力の向上のために、日々努力して頑張ってきていることと思います。しかし、日常の業務の多忙化のために、研鑽そのものが困難な状況にある学校も多いのではないのでしょうか。その解決策の一つとして、熊事研の存在が役に立てばと考えています。研究部もその一翼を担っていくために活動していきます。

また、平成27年度に開催されます全事研熊本大会に向けて、全国大会実行委員会発表部と連携し、熊事研の研究成果を全国に発信する機会として、最大限アピールできるように、取り組んでいきたいと思っています。

研究大会については、キャリアアップの機会の一つとして更に充実させるために、地区事務研との連携を強化していく事が重要なポイントになると思います。それも含めた、内容の検討も必要ではないかと考えています。そのためにも県事務研と地区事務研をつなぐ架け橋として、研究部活動がより身近に感じられるように情報提供なども含めた工夫をしていきたいと思っています。日々の実践を通してお互いに協働し、未来の学校事務を創造していくためには、会員の皆様一人ひとりの力がなくてはならないものだと思います。皆で頑張っていきましょう。会員の皆様にとって、満足のいく研究活動ができるかは不安ではありますが、各地区より選出されました11名の研究部員とともに、できる限りのことを精一杯頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

実行委員会便り



雨にぬれる紫陽花がひととき鮮やかな季節となりました。会員の皆様におかれましては、日々の業務お疲れ様です。

さて、去る4月11日第1回実行委員会を開催し、平成27年度の全事研熊本大会に向けて実動を開始したところです。全員が顔を合わせるのは初めてでしたが、藤川会長、宮本実行委員長の熱い挨拶の後、各部に分かれて大会までの主な計画をたてました。

また、各部で計画をたてる中に人員不足の部がありましたので、第1回理事会において9名の追加承認をいただき、当面36名で開催に向け準備を行なっていきます。

しかし、全国から約二千名の参加者を予定しております大会です。今後さらに多くの会員の方のご協力が必要となってまいります。その際は、快くお引き受けいただきますようお願いいたします。

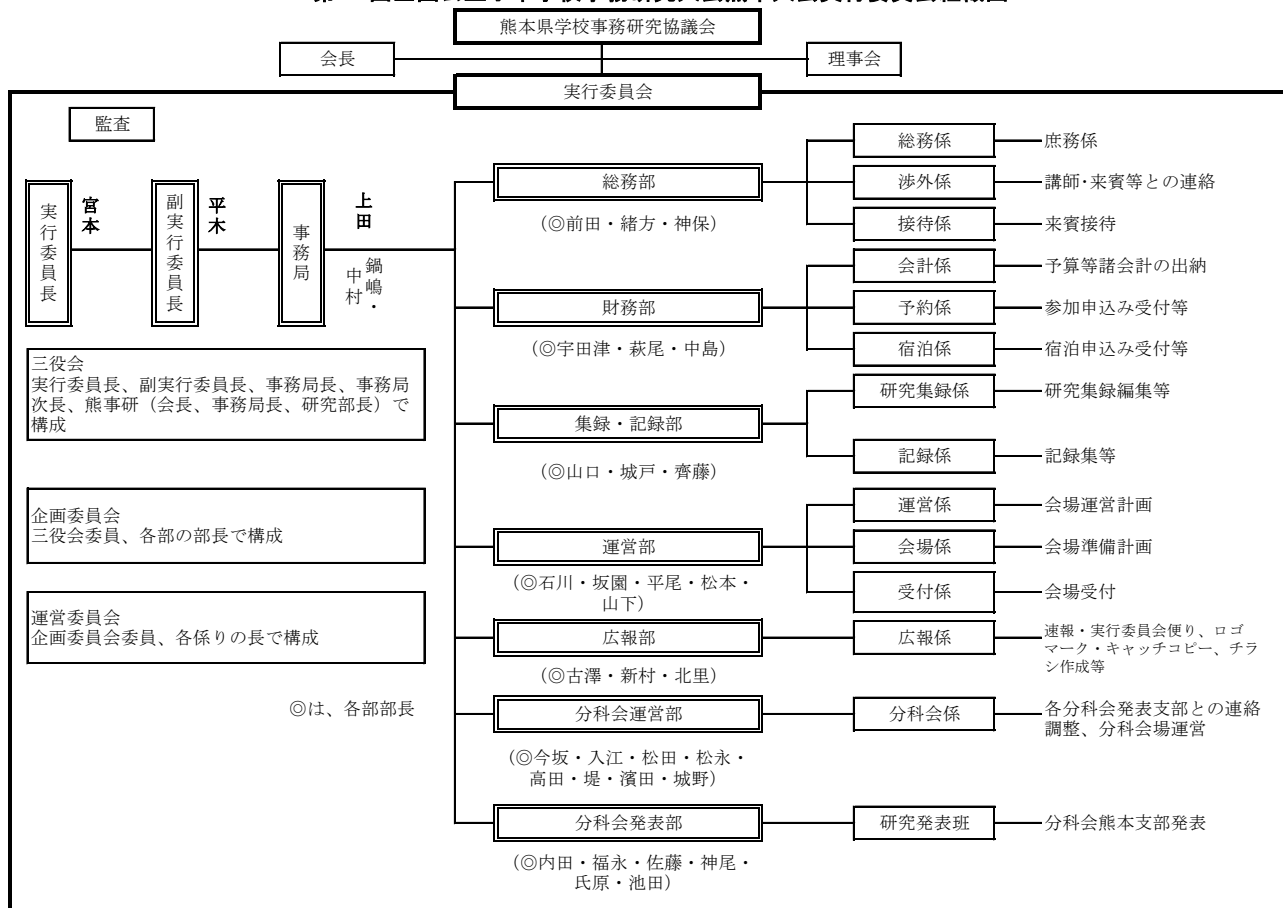
次に、実行委員と担当部署の紹介および、実行委員会の組織図をお知らせいたします。

第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会実行委員名簿

実行委員長 宮本 和明 (熊本) 熊本市立五霊中学校
副実行委員長 平木 雅万 (八代) 八代郡氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校

担当部署	地区	氏名	担当部署	地区	氏名	担当部署	地区	氏名
事務局長	熊本	上田 千浩	分科会運営部長	熊本	今坂 文枝	運営部長	熊本	石川奈津美
事務局	熊本	鍋嶋 美紀	分科会運営部	菊池	松田真理子	運営部	菊池	平尾 幸夫
事務局	宇城	中村 勝美	分科会運営部	阿蘇	松永 珠枝	運営部	熊本	坂園 寿枝
総務部長	天草	前田 和美	分科会運営部	熊本	堤 愛	運営部	熊本	松本 和朗
総務部	熊本	緒方 洋子	分科会運営部	宇城	高田 剛	運営部	熊本	山下 貴子
総務部	熊本	神保 英男	分科会運営部	宇城	入江 政司	広報部長	阿蘇	古澤 修代
財務部長	水葦	宇田津典子	分科会運営部	熊本	濱田 千里	広報部	阿蘇	新村美奈子
財務部	荒玉	萩尾 綾子	分科会運営部	熊本	城野 亜希	広報部	人球	北里 良徳
財務部	阿蘇	中島 暁子	分科会発表部長	上益城	内田 貴博	分科会発表部	上益城	神尾 浩輔
集録・記録部長	熊本	山口 孝史	分科会発表部	人球	福永 高嗣	分科会発表部	宇城	氏原美和子
集録・記録部	山鹿	城戸 康幸	分科会発表部	阿蘇	佐藤 賢一	分科会発表部	八代	池田 陽子
集録・記録部	阿蘇	齊藤 慶子						

第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会実行委員会組織図



研究部便り

研究部では、本年度の研究の方向性を、第3期研究計画の、『「教育課程と学校事務」の観点から、カリキュラムマネジメントと一体となった教育条件整備の在り方や、それを通じた教職員の協働体制と学校組織の在り方、それを支える学校財務の関連等について研究を行う』としています。

これは、全事研福岡大会、全事研鳥取大会での分科会発表を踏まえてのものです。鳥取大会発表から数年が経過し、県内でも様々な取組実践が行われており、それに関連する県大会での各地区レポートが発表されています。その内容を検証し、研究部として理論的に整理しようと計画しています。

また、「共同実施」が本格導入されて5年が経過しました。導入後も、県大会でいくつもの取組が発表されてきました。規模や、人員構成、地区の実態によって内容は様々ですが、どれも前向きなものばかりでした。そのことが他のグループの活動にも影響を与えていることと思いますが、正確な実態については、これまで研究部として把握はできていませんでした。

今年度は、県下全域でのアンケート調査を実施することで、現在の「共同実施」の実態把握と考察を通して、研究部の考える「共同実施」の可能性とこれからについて県大会で発表します。今更と思われるかもしれませんが、5年という一つの区切りでもあり、改めて考える良い時期ではないかと思えます。事務職員が学校運営に、より一層積極的に関わる事が求められています。それに応えていくためには、「個」が自己研鑽し、力量をアップさせていくことも重要ですが、「組織」として「協働」していくことで力をつけていくことも必要ではないでしょうか。果たして、この5年間で「共同実施」という「組織」を活用し、向上させることが出来たのでしょうか。その部分に視点を当て研究していきます。今年度の県大会の全体研究会では、「共同実施のこれから」についての講演を予定しております。その後のパネルディスカッションでは、他県からも数名のパネラーに参加していただき、会場も一体となった論議が出来ればと考えています。その中から、「熊本の共同実施」の、将来への方向性が見つけることができると思っています。研究部としても、他県の情報等を収集し、会報等を通して会員の皆様に提供していきたいと考えています。

最後になりましたが、新研究部長を支える11名と共に、わずかな歩みになるかもしれませんが、前に進んでいきたいと思えます。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。



地区研ホームページ紹介

山鹿市公立小中学校学校事務職員研究会のホームページを紹介いたします。6月26日にリニューアルされています。

編集者のおすすめは、学校案内のページです。アクセスは、<http://sakural.higo.ed.jp/ws/kmtjimuw/>です。

または熊事研のトップページから外部リンクのページへ。



編集後記

■今年度より熊事研の事務局員になり、調査と会報発行を担当することになりました。原稿依頼やレイアウト編集など初めてのことでただけとまどうばかりでしたが、共同編集者に助けられ何とか今年度第1号を発行することができました。多くの会員の皆様に目を通していただけるよう、いろいろな情報をお届けできたらと思っていますのでご意見・ご要望・ご感想など、どしどしお待ちしております。(AU)

■私、甘ちゃんだった。よし！9割方できたと思った所から先が……。ひよこ子編集者。(YK)

